<別記 6>

平成22年度 再評価対象事業一覧表

事業名	施設名	事業計画				再評価の理由	再評価の視点										前回審議年度	対応方針(原案)					
		事業主体	事業箇所	事業概要	工期		事業進捗の状況及び見込み					上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向	費用対効果分析				コスト縮減及び代替案立案の可能性の有無				
					着工		完了	前年度進捗率	進捗率	122年度進捗率	123年度以降進捗率				B/C	分析基礎の要因の変化							
					上段:当初		下段:変更													(億円)	(%)	(%)	(億円)
環境部																							
水環境対策課																							
水対-1 (個別)	公共下水道事業	諫早市公共下水道事業 諫早市特定環境保全公共下水道事業	市	諫早市	<汚水> 計画区域 1,886ha 計画人口 87,600人 計画汚水量(日最大) 56,321m ³ /日	S57	H32	855.6	社会情勢の変化 (全体計画及び事業計画の見直しにより新たな処理区に着手)	522.6	65.0	93.0	8.6	267.9	諫早湾及び橘湾流域においては、平成21年度末までに16箇所の農業集落排水事業の供用開始を図っている。また、公共下水道・農業集落排水処理施設等の整備が遅延する区域及び困難な地域を対象に、個人型浄化槽の整備を促進している。以上の事業については、諫早市下水道経営戦略プランに基づき行っている。	諫早市は平成17年3月に近隣の5町と合併を行った。また、将来行政人口の減少が見込まれ、経済情勢が大きく変化していく中で、事業の実施には、より一層の効率性が求められる。なお、橘湾流域の水質保全のため田結処理区の整備を進めているが、その進捗が約72%まで進んだことから、今回、これに隣接する飯盛処理区に着手する。	事業に対する関心は非常に高く、未整備区域においても下水道の早期整備の要望が強い。	1.52	1.77	当初のB/Cは全体計画を見直す前の諫早湾処理区(H19審議)を採用する。	・再生材を利用するなど、可能な限りコスト縮減を図る。 代替案の可能性はない	H19	見直し継続
					<雨水> 計画区域 1,243ha	S57	H42	799.0															
					<汚水> 計画区域 1,849ha 計画人口 57,200人 計画汚水量(日最大) 34,344m ³ /日	H3	H22	140.0															
<雨水> 計画区域 1,206ha	H3	H30	170.3																				

平成22年度 再評価対象事業一覧表

事業名	施設名	事業計画				再評価の理由	再評価の視点										前回審議年度	対応方針(原案)				
		事業主体	事業箇所	事業概要	工期		事業進捗の状況及び見込み				上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向	費用対効果分析		コスト縮減及び代替案立案の可能性の有無						
					着工		完了	前年度迄事業費(億円)	進捗率(%)	用地進捗率(%)				H22年度事業費(億円)	H23年度以降事業費(億円)				B/C	分析基礎の要因の変化		
					上段:当初		下段:変更														当初	現行
土木部																						
都市計画課																						
都計-4 (個別)	土地区画整理事業	時津中央第2土地区画整理事業	町	時津町	施行面積:20.3ha 建物移転:301戸 宅地整地:139,173㎡ 道路:6,860m	H13	H25	126.1	事業採択後10年経過	3.8	3	-	4.0	118.3	○第4次時津町総合計画(基本計画後期5ヶ年) ○都市計画マスタープラン(平成15年度)の市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針の中に明記されている。 ・大型商業施設の進出等による国道の交通渋滞に伴い、多くの車輛が本区内の狭い生活道路に流入し、住環境を悪化させている。 ・市政の課題等により資金計画の見直しが必要となっている。	事業の早期着工	4.55	3.37	・マニュアルの変更 ・交通量(道路交通センサス値)の変化	区域内発生土を区域内の造成へ流用	-	継続
						H13	H27	126.1														
道路建設課																						
道建-1 (個別)	道路改築事業	一般国道206号道路改良工事小迎バイパス	県	西海市	延長=6,100m 幅員=7.0(10.5)m	H13	H22	216.4	事業採択後10年経過	189.1	87	98	22.0	5.3	・一般国道202号道路改築事業指方バイパス(H17~H22) ・長崎県長期総合計画(もてなしあふれる観光交流促進プロジェクト主要事業) ・H13.10長崎オランダ村閉園 ・H15.2ハウステンボスが会社更生法申請。 ・H17.4.1に西彼杵半島5町が合併し、西海市となる。 ・用地取得に不足の時間を要し完成年度が2年遅延。	西海市が早期完成を要望	2.30	1.20	・費用便益分析マニュアルの改訂 ・交通量推計における交通量伸び率の変更	進捗率は高く代替案の可能性はない。	-	継続
						H13	H24	216.4														
道路維持課																						
道維-1 (個別)	道路改築事業	市道赤島線	市	対馬市	L=2.78km W=5.5(7.0)m 改良 L=2,720m 橋梁 L=60m 舗装 L=2,780m	H13	H22	24.0	事業採択後10年経過	14.2	61	100	2.0	7.0	第1次対馬市総合計画において身近な道路交通ネットワークの整備促進として位置づけている。美津島東地区地域水産物供給基盤整備事業(H13~H18) 平成16年3月に旧6町が合併し対馬市となり整備路線数も急増し、これに効果的な投資が出来なかった。現状においては、整備路線の見直しや、完了路線も増えたことにより本路線に重点的な投資を行い早期完成を図りたい。	事業の早期完成を切望している	1.16	1.02	完成年度の遅延によるもの	代替案の可能性はない	-	継続
						H13	H26	23.2														

<別記 6>

平成22年度 再評価対象事業一覧表

事業名	施設名	事業計画				工期		再評価の理由	事業進捗の状況及び見込み					再評価の視点				前回審議年度	対応方針(原案)			
		事業主体	事業箇所	事業概要	着工	完了	事業費(億円)		前年度迄事業費		用地進捗率		H23年度以降事業費		上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向			費用対効果分析		コスト削減及び代替案立案の可能性の有無
									B/C	分析基礎の要因の変化	当初	現行										
													上段:当初	下段:変更						(%)	(%)	
住宅課																						
住宅-1 (個別)	住宅市街地基盤整備事業(諫早西部団地)	堀の内西栄田線	市	諫早市	L=1240m W=12.5~16m	H13	H25	事業採択後10年経過	3.8	17	85	0.1	17.9	諫早西部新住宅市街地開発事業(諫早西部団地)(H13~H27)第1工区は完成。第2工区がH21より着手。都市計画道路破籠井鷲崎線(栄田工区)(H23~)諫早市都市計画マスタープランの地域別構想では新住宅市街地開発事業の推進地区に位置づけされている。	諫早西部新住宅市街地開発事業と一体的に整備する必要があり、計画策定に時間を要したため、事業が長期化	早期完成を要望	-	1.33	採択時、算出なし	盛土材(10万m ³)を発生材(長崎新幹線事業)を流用することによりコスト削減を検討している代替案 特になし	-	継続
						H13	H25															
住宅-2 (個別)	住宅市街地基盤整備事業(中川鳴滝地区)	市道中川鳴滝3号線	市	長崎市	L=1,200m W=10~12m	H13	H22	事業採択後10年経過	7.2	17.5	22.5	1.0	32.8	本事業は、長崎市第三次総合計画、長崎市都市計画マスタープラン及び長崎市住生活基本計画に重点プロジェクトとして位置づけられている。関連事業としてH19.3に多目的広場(鳴滝遊園)が完成。	H15.4片淵中学校の移転完了。	平成9年度にまちづくり協議会が発足し、協議会を中心とした協議、勉強会等の活動を継続的に行っており、依然として地元の整備に対する要望は強い。	1.74	2.42	・事業期間の見直し ・費用便益分析マニュアルの変更による。	代替案の可能性はない。	-	継続
						H13	H27															